

東京の医師の需要と供給： 定性的な視点もふくめ

真野俊樹

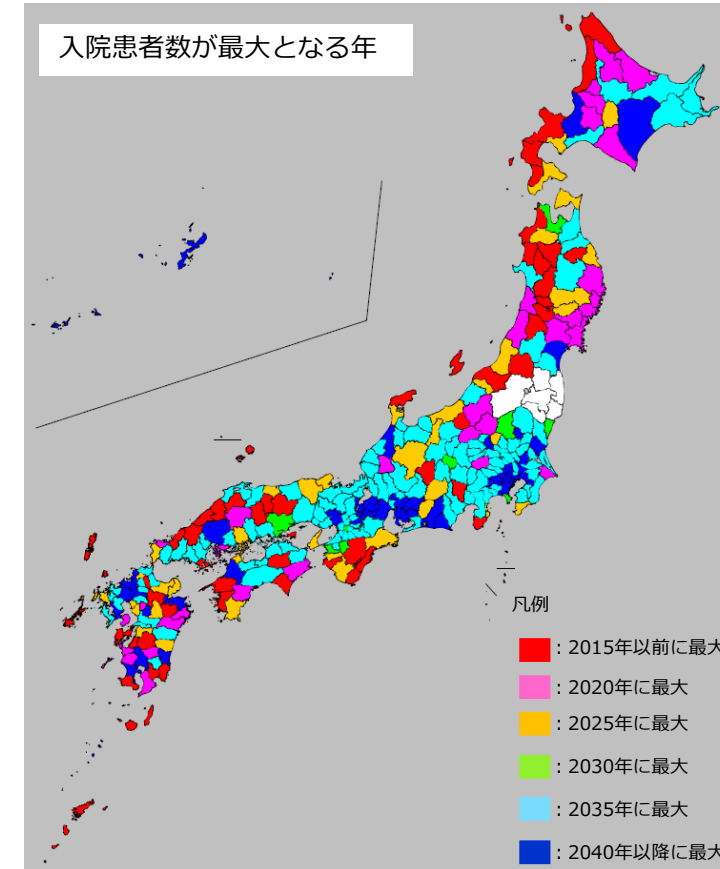
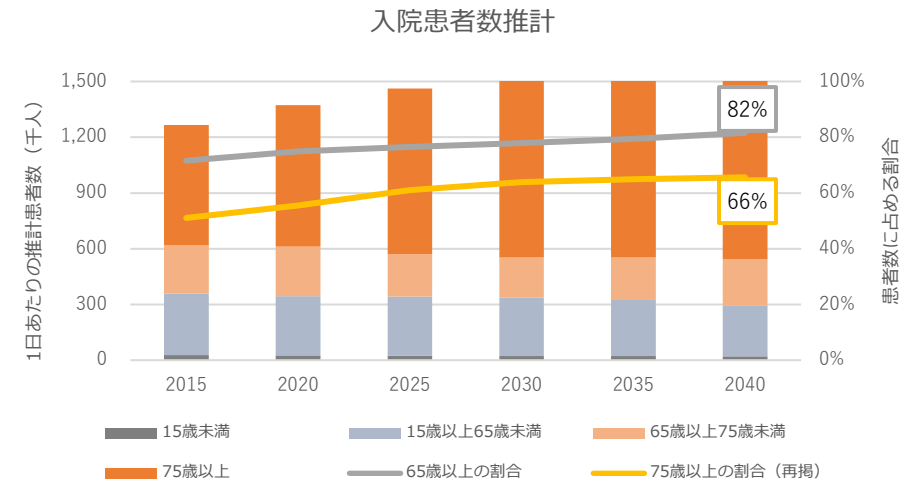
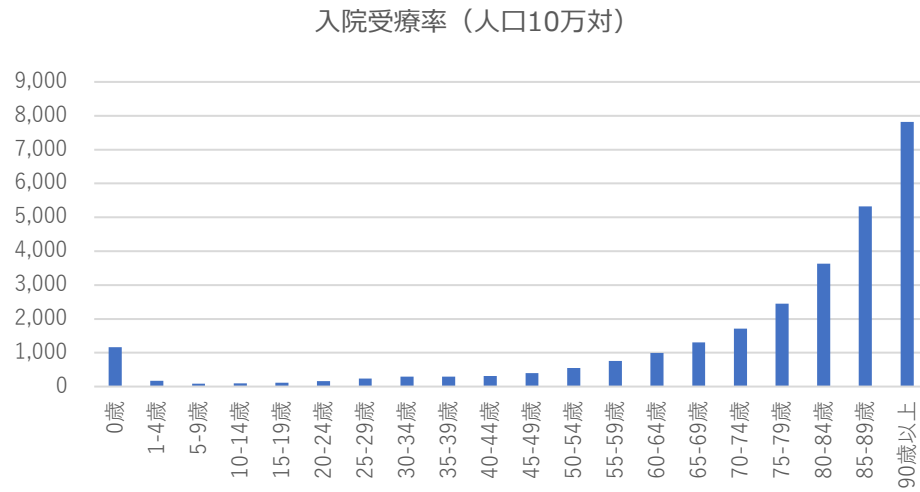
中央大学戦略経営研究科教授

需要側

医療需要の変化① 入院患者数は、全体としては増加傾向にある

令和4年3月4日 第7回第8次医療計画等に関する検討会 資料1

- 全国での入院患者数は2040年にピークを迎えることが見込まれる。65歳以上が占める割合は継続的に上昇し、2040年には約8割となるが見込まれる。
- 2次医療圏によって入院患者数が最大となる年は様々であるが、既に2020年までに90の医療圏が、また2035年までには261の医療圏がピークを迎えることが見込まれる。



出典：患者調査（平成29年）「受療率（人口10万対）、入院—外来×性・年齢階級×都道府県別」

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

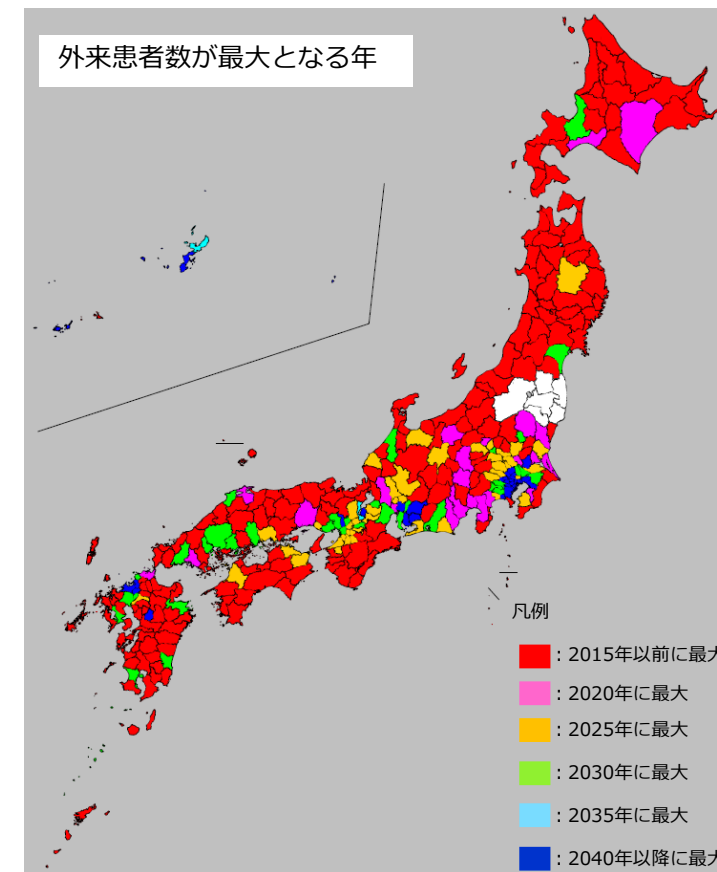
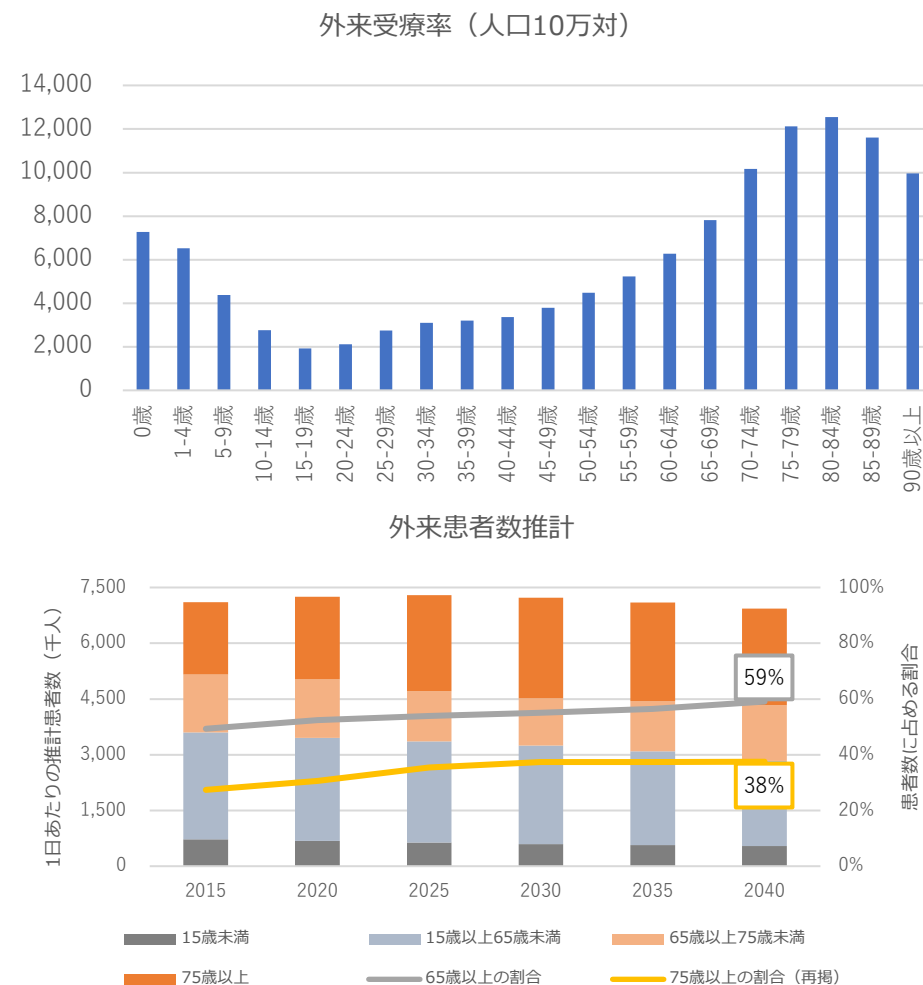
※ 2次医療圏の患者数は、当該2次医療圏が属する都道府県の受療率が各医療圏に当てはまるものとして、将来の人口推計を用いて算出。

※ 福島県は市区町村ごとの人口推計が行われていないため、福島県の2次医療圏を除く329の2次医療圏について集計。

医療需要の変化② 外来患者数は、既に減少局面にある医療圏が多い

令和4年3月4日 第7回第8次医療計画等に関する検討会 資料1

- 全国での外来患者数は2025年にピークを迎えることが見込まれる。65歳以上が占める割合は継続的に上昇し、2040年には約6割となるが見込まれる。
- 既に2020年までに217の医療圏では外来患者数のピークを迎えていると見込まれる。



出典：患者調査（平成29年）「受療率（人口10万対）、入院—外来×性・年齢階級×都道府県別」

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

※「外来」には「通院」「往診」「訪問診療」「医師以外の訪問」が含まれる。

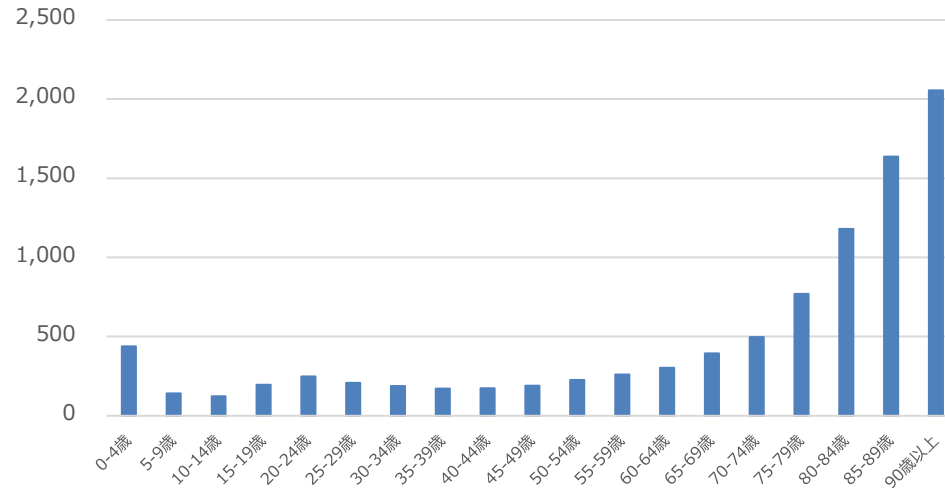
※ 二次医療圏の患者数は、当該二次医療圏が属する都道府県の受療率が各医療圏に当てはまるものとして、将来の人口推計を用いて算出。

※ 福島県は市区町村ごとの人口推計が行われていないため、福島県の二次医療圏を除く329の二次医療圏について集計。

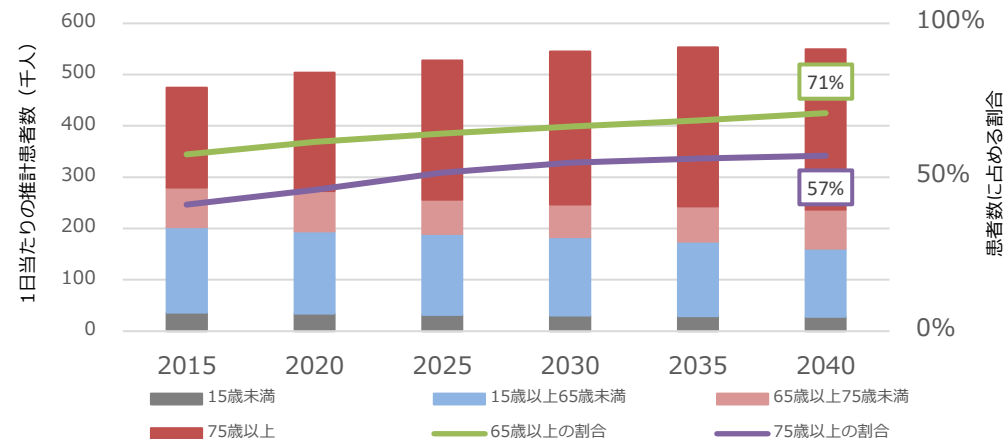
救急搬送件数は、多くの地域で今後増加する

- 全国での救急搬送件数は2035年にピークを迎えることが見込まれる。65歳以上が占める割合は継続的に上昇し、2040年には約7割となるが見込まれる。
- 2030年以降に202の二次医療圏において救急搬送件数のピークを迎えることが見込まれる。

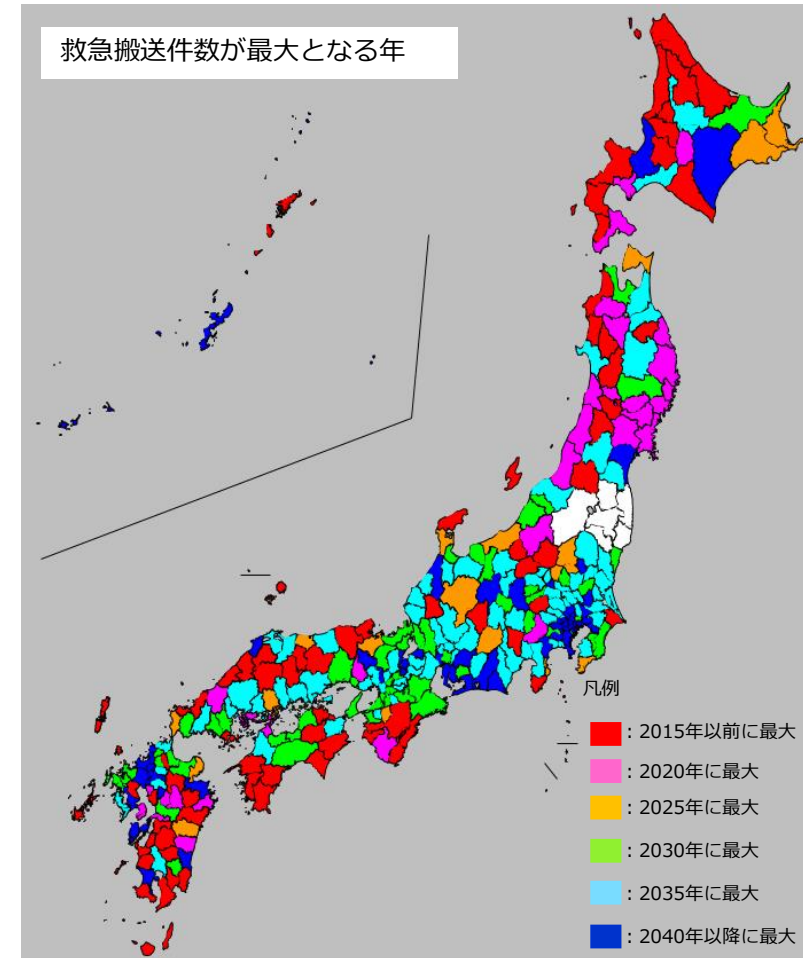
年齢階級別救急搬送件数（人口10万対）



救急搬送件数推計



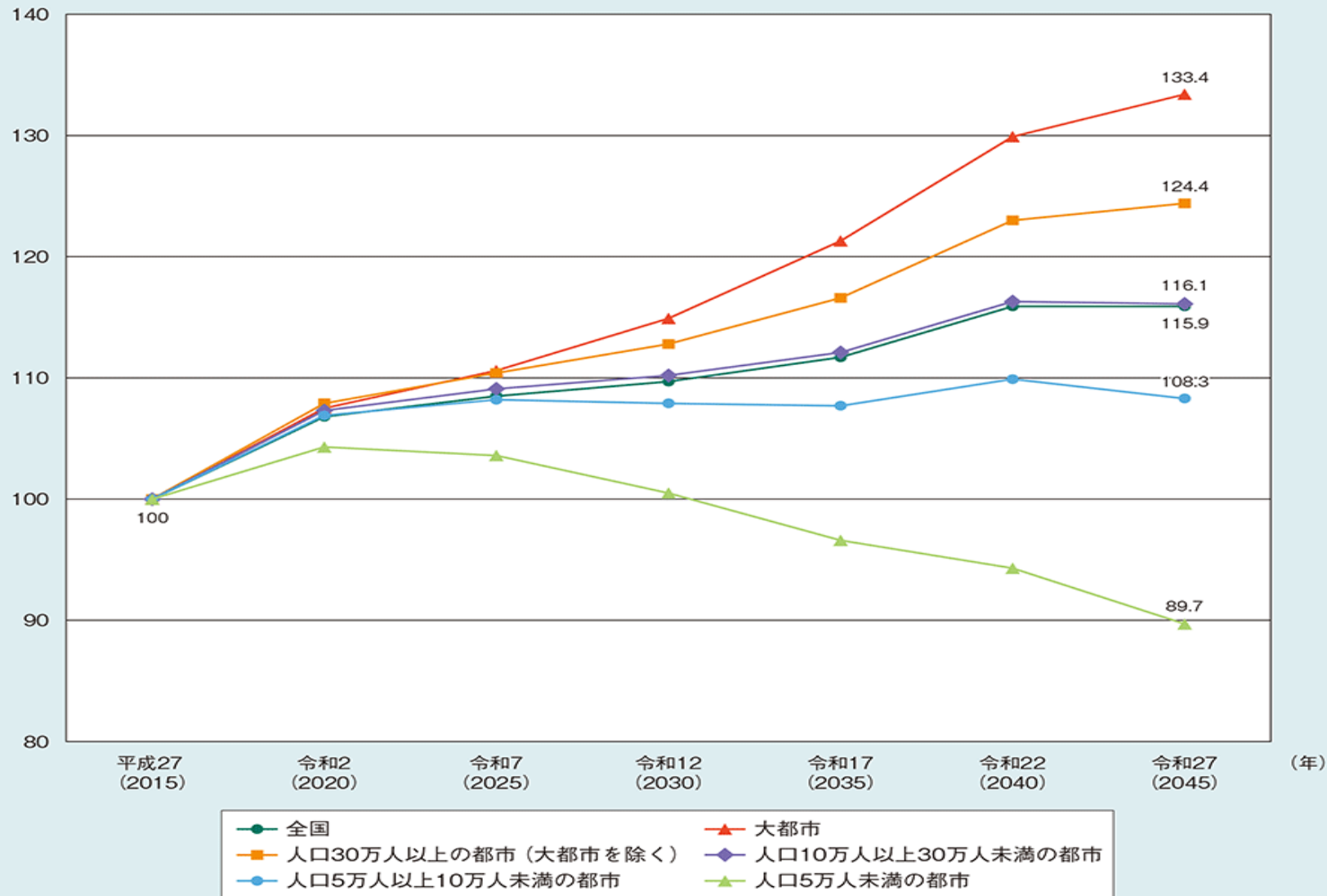
救急搬送件数が最大となる年



資料出所：「消防庁救急搬送人員データ」（2019年）を用いて、救急搬送（2019年分）の件数を集計したものを、2020年1月住民基本台帳人口で把握した都道府県別人口で除して年齢階級別に利用率を作成し、地域別将来推計人口に適用して作成。

※ 性別が不詳のレセプトについては集計対象外としている。また、年齢階級別人口については、年齢不詳人口を除いて利用。
 ※ 福島県は市区町村ごとの人口推計が行われていないため、福島県の二次医療圏を除く329の二次医療圏について集計。

都市規模別「65歳以上人口」（2015年＝100指数）



資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）」をもとに作成。

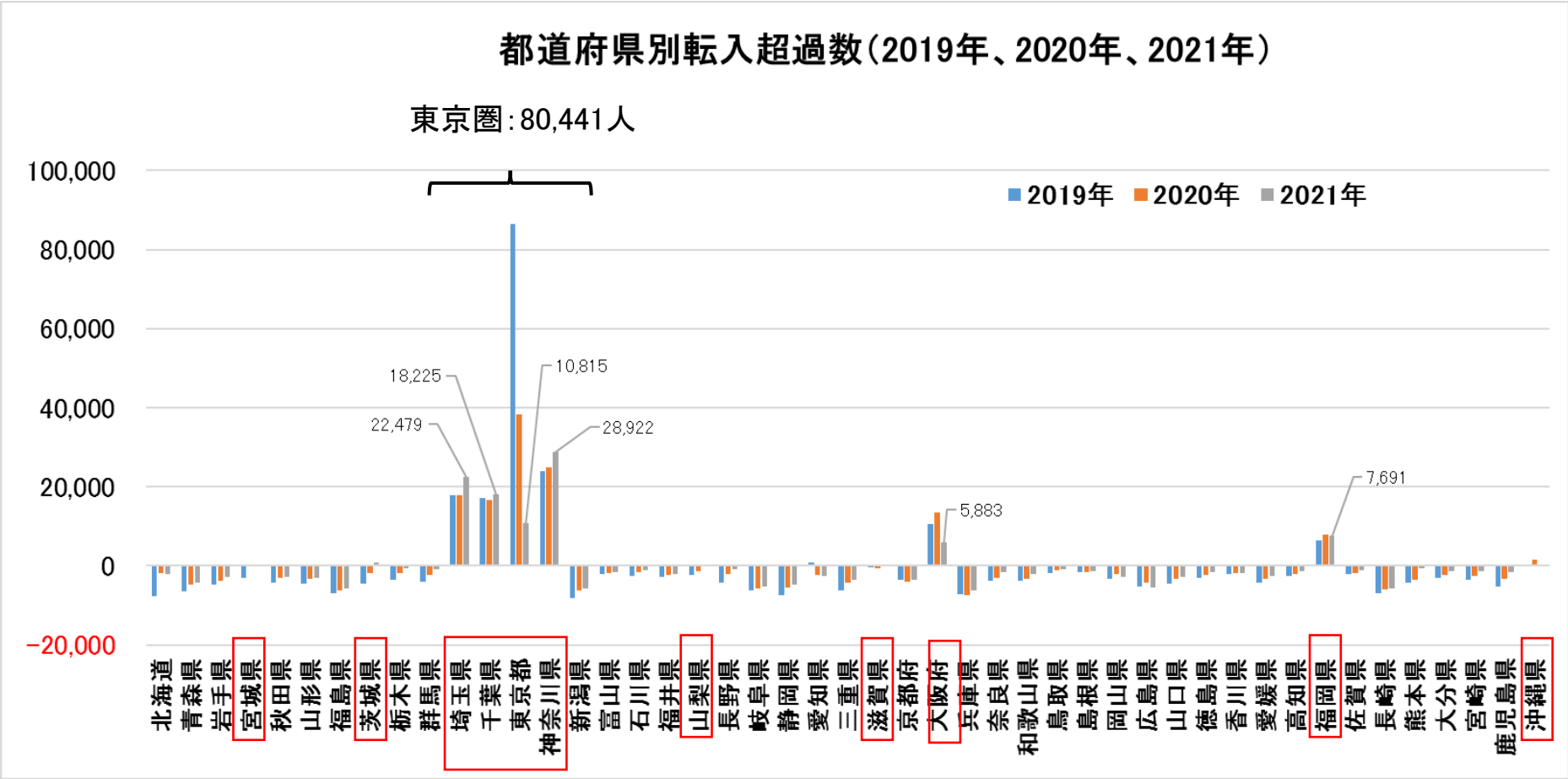
（注1）各カテゴリーごとに総計を求め、2015年の人口を100とし、各年の人口を指数化した。

（注2）「大都市」は、東京都区部及び政令指定都市を指す。

（注3）福島県のデータは含まれていない。

都道府県別転入超過数

- 2020年転入超過だった7都府県(神奈川県、埼玉県、千葉県、東京都、大阪府、福岡県、沖縄県)に加え、2021年は更に4県(宮城県、茨城県、山梨県、滋賀県)が転入超過。
- 東京都は約1万人の転入超過であり、前年(約3.8万人)から更に減少。
- 東京圏(1都3県計)も前年(約9.8万人)から更に減少し、約8万人の転入超過。



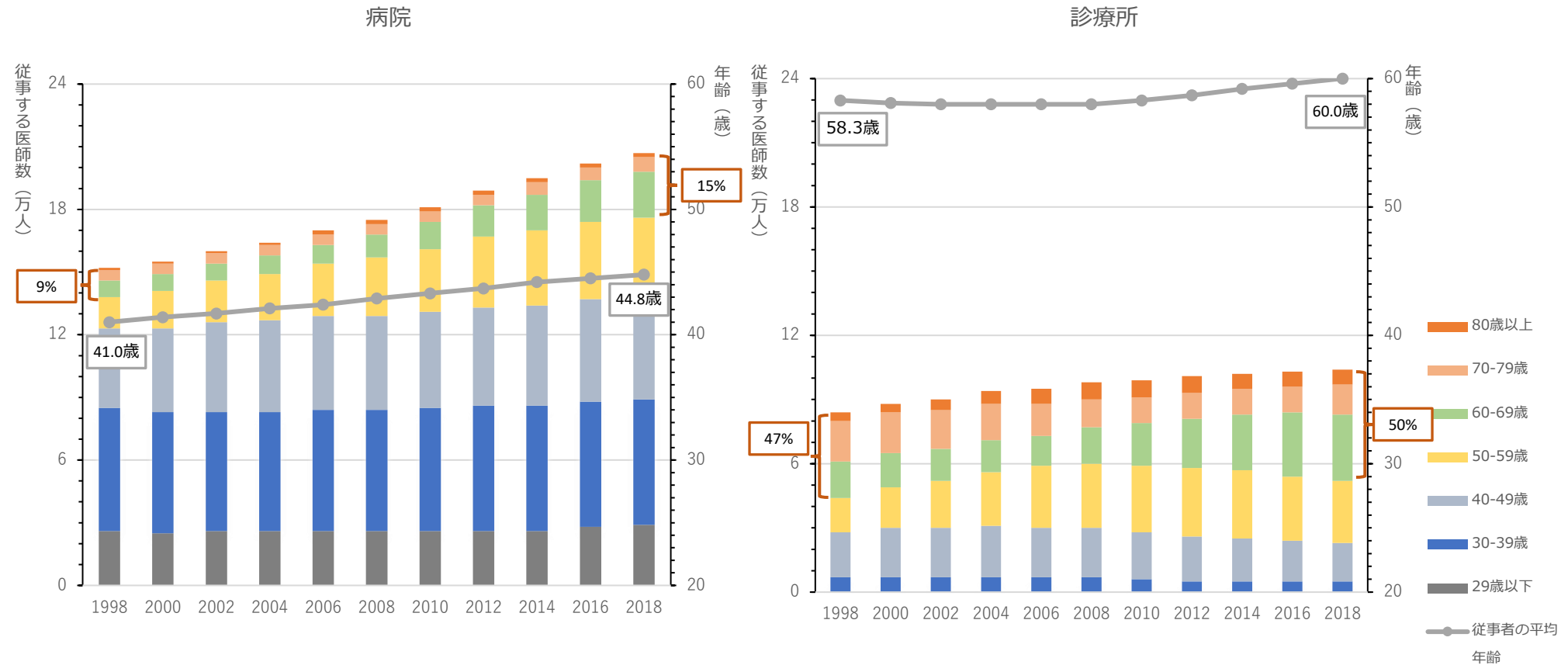
供給側

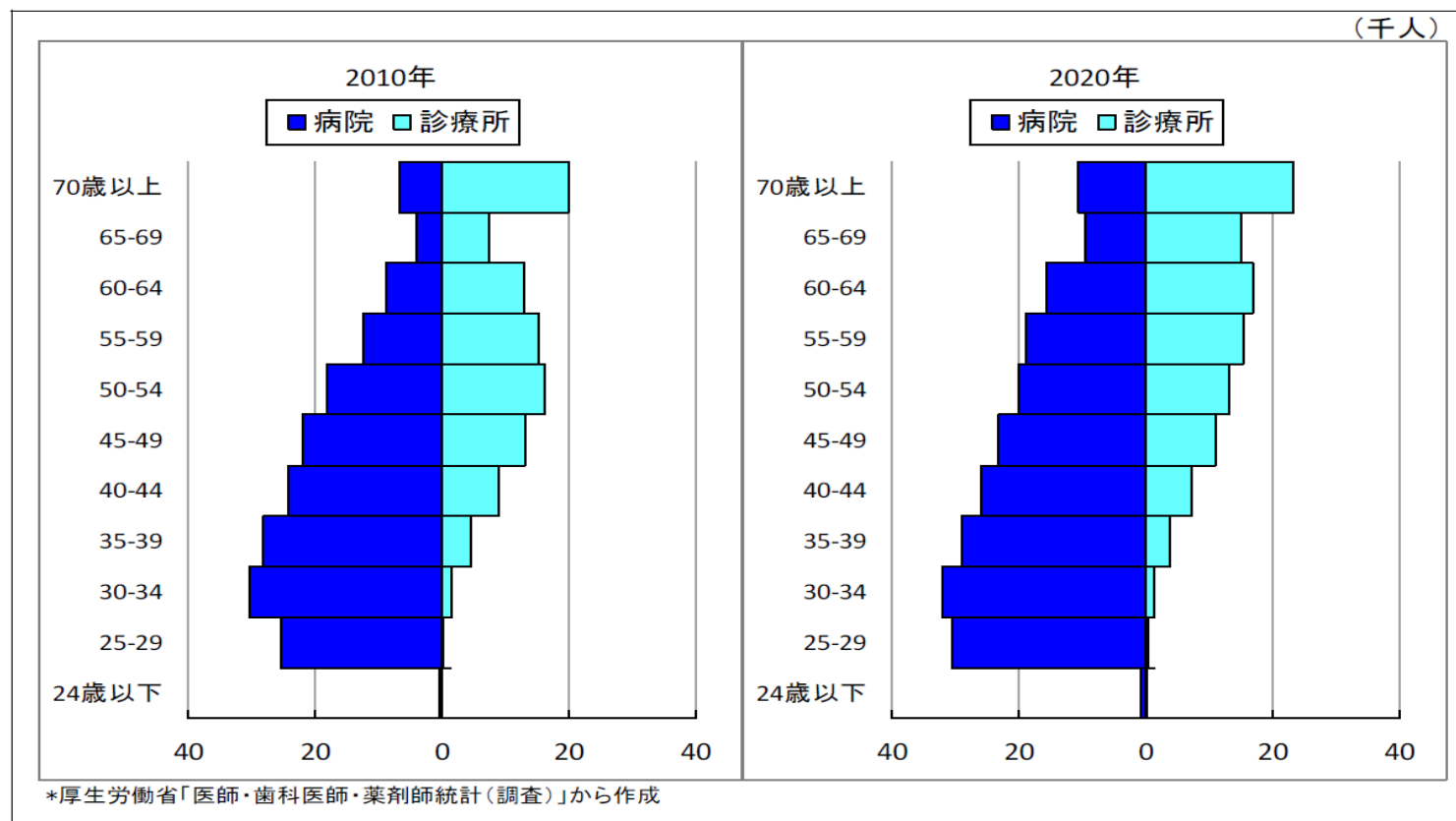
マンパワー④ 提供者側（医師）の高齢化も進展している

令和4年3月4日 第7回第8次医療計画等に関する検討会 資料1

- 病院に従事する医師数は、ここ20年で5.5万人増加しているが、60歳以上の医師が占める割合は15%に増加しており、平均年齢は44.8歳まで上昇している。
- 診療所に従事する医師数は、ここ20年で2.0万人増加しているが、60歳以上の医師が占める割合は50%程度で、平均年齢は60.0歳まで上昇している。

年齢階級別にみた病院従事する医師数及び平均年齢の年次推移





- <https://www.jmari.med.or.jp/wp-content/uploads/2022/05/RR126.pdf>

診療所数

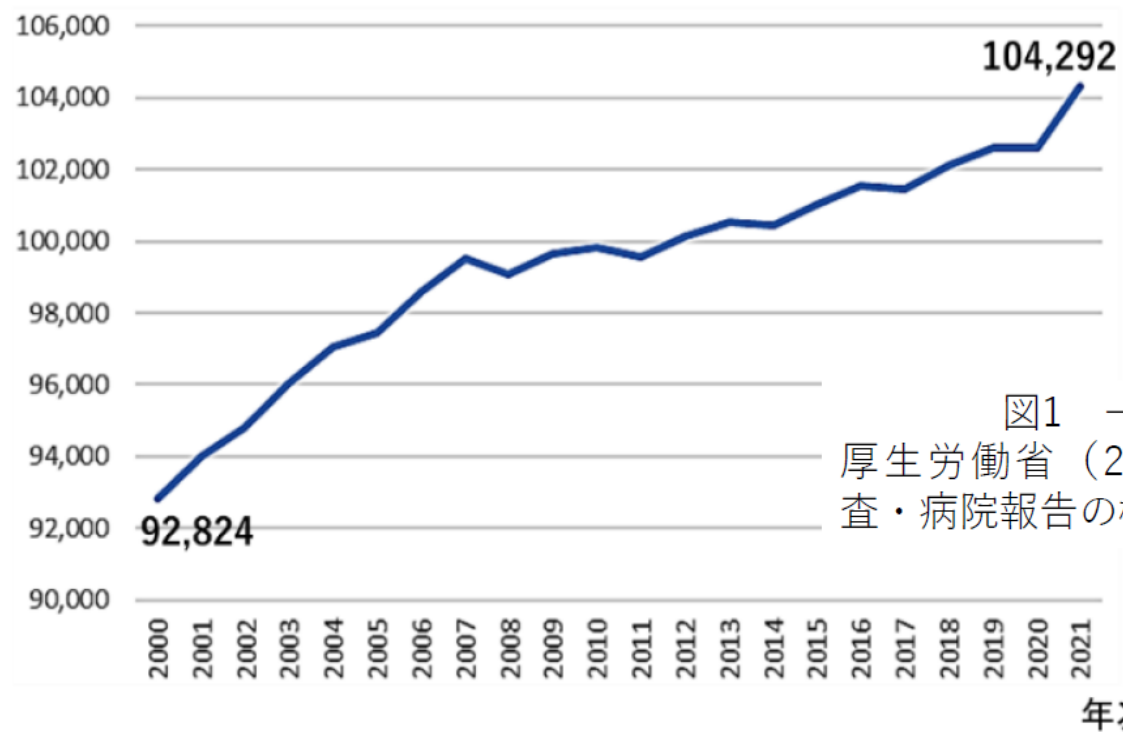
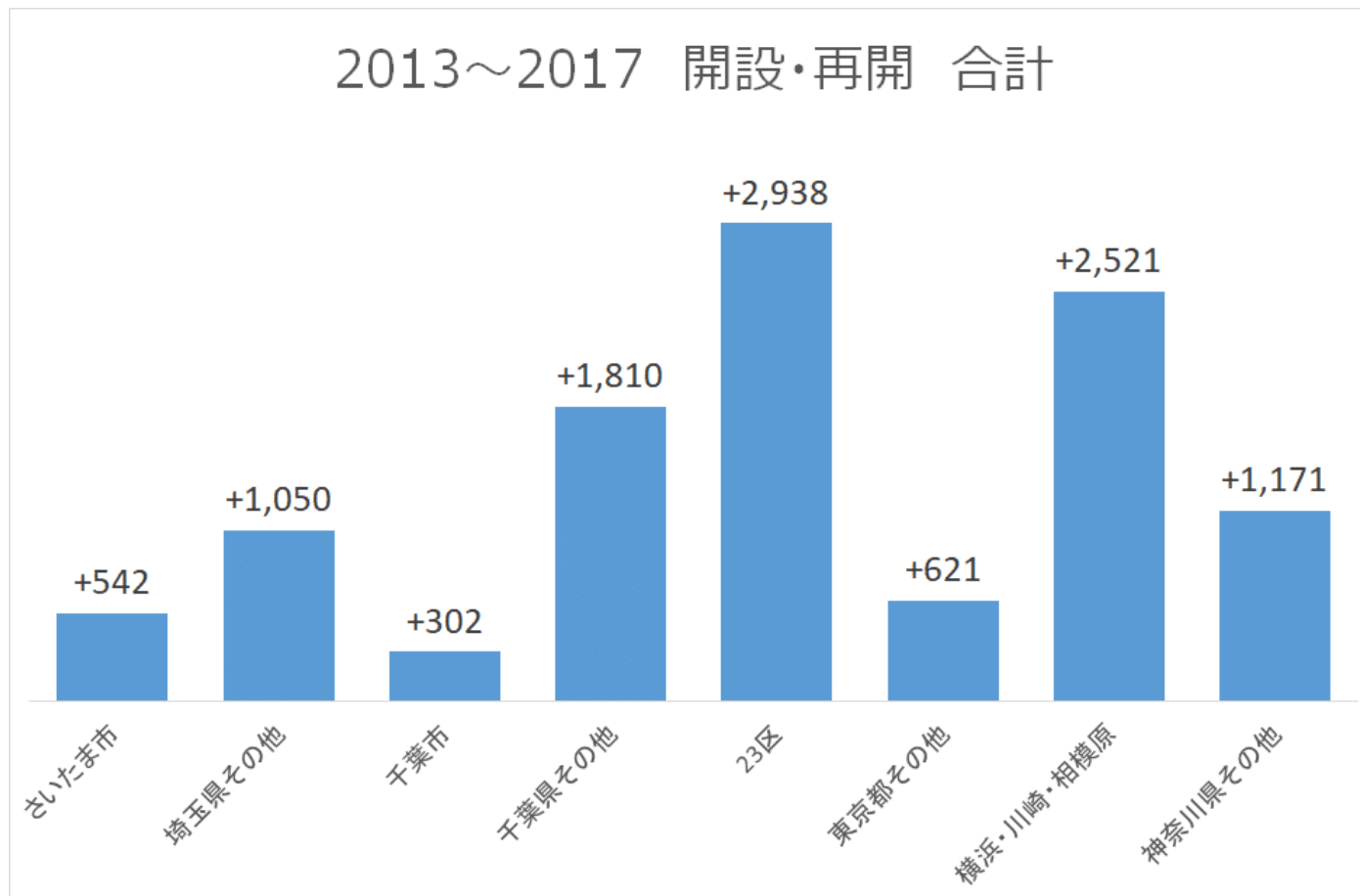
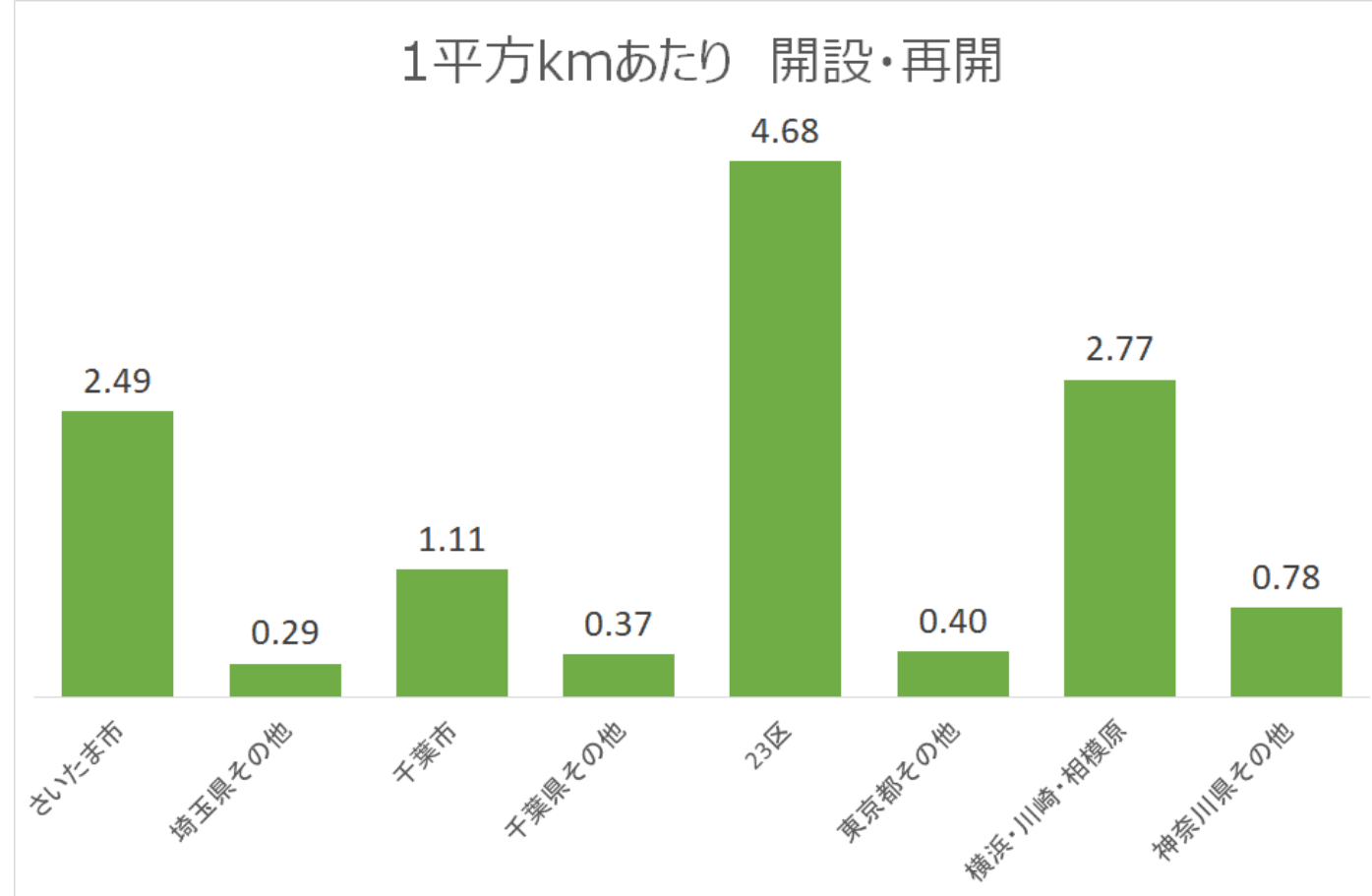


図1 一般診療所数の推移
厚生労働省（2021）「医療施設(動態)調査・病院報告の概況」を基に筆者作成

開業医数の変化

	1999	2002	2005	2008	2011	2014	2017	2018	2019年	直近1年の増加
東京	11,548	11,848	12,269	12,572	12,612	12,780	13,257	13,429	13,707	278
全国	91,500	94,819	97,442	99,083	99,547	100,461	101,471	102,105	102,616	511





<https://bijicom.co.jp/stat-2013-2017>

2013～2017 開設／廃止の収支

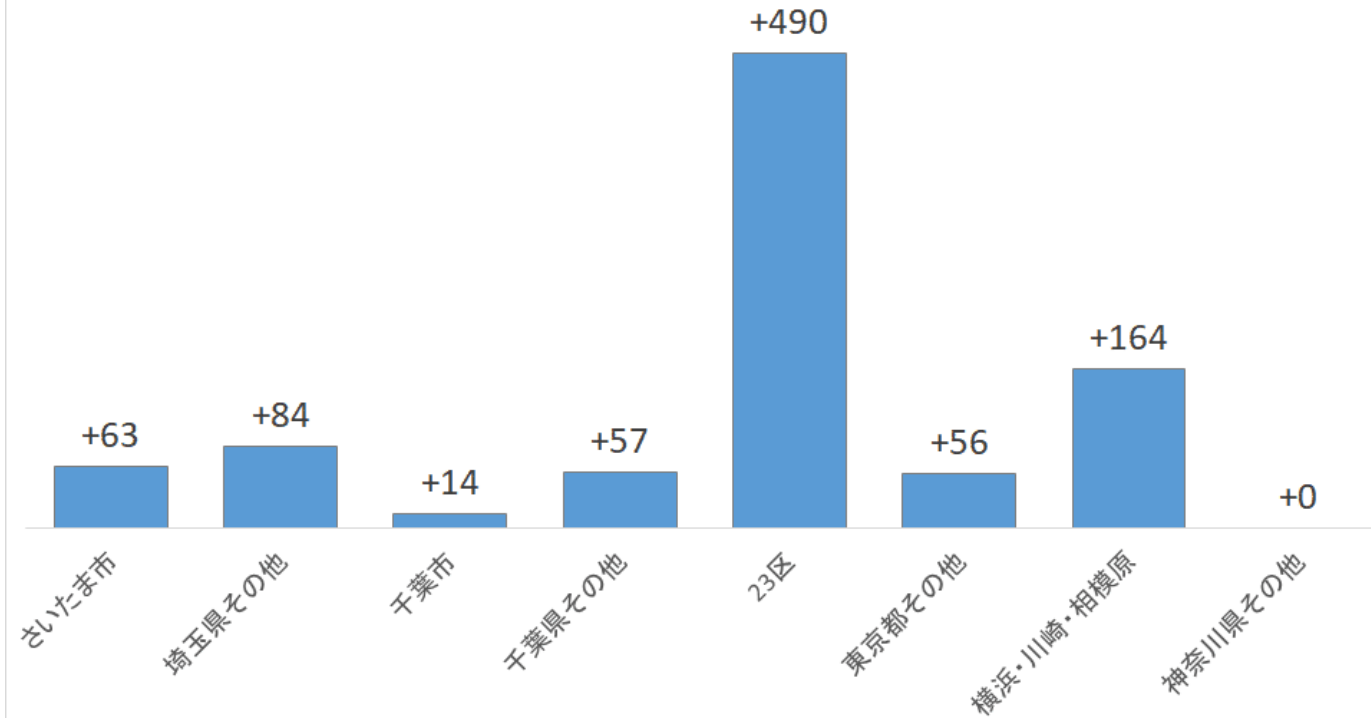
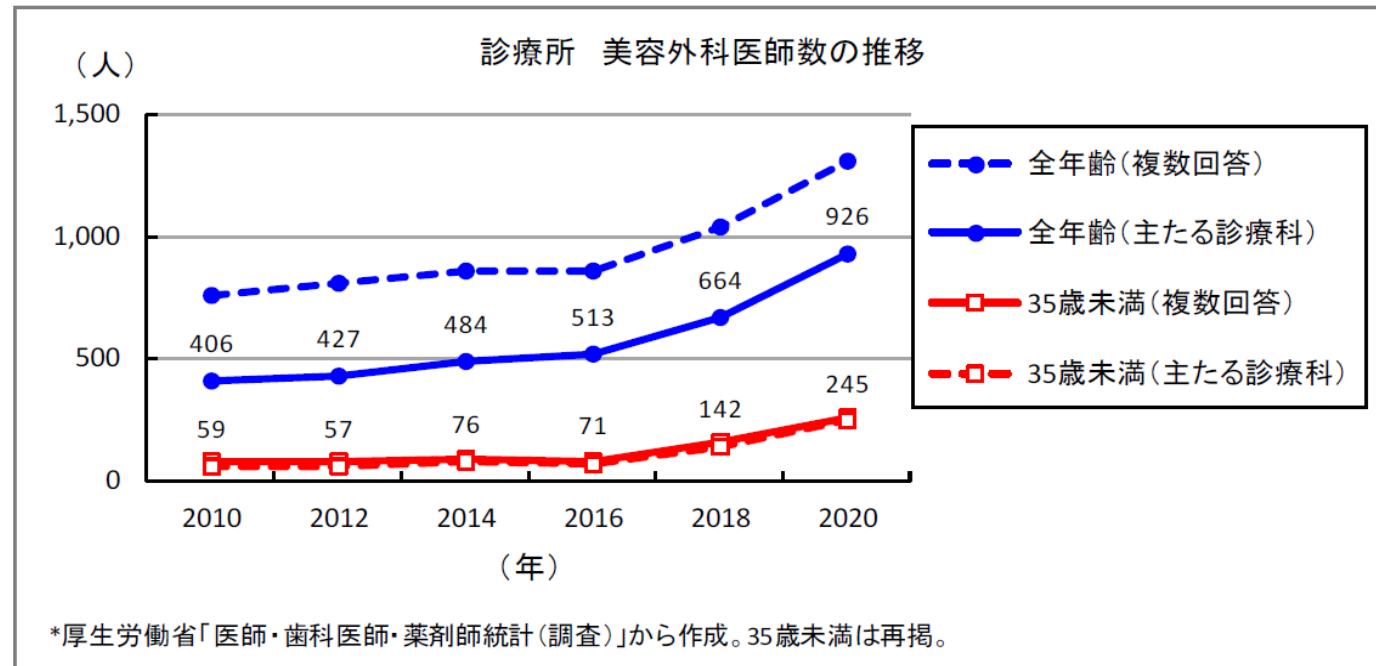


図 2.3.7 診療所 美容外科医師数の推移



<https://www.jmari.med.or.jp/wp-content/uploads/2022/05/RR126.pdf>

まとめ

- 東京の医療需要は増加
- 医師数も多いが、専門化も進んでいる
- 開業医の高齢化もあり、今後の需要に対応できるか、都会型の視点が重要